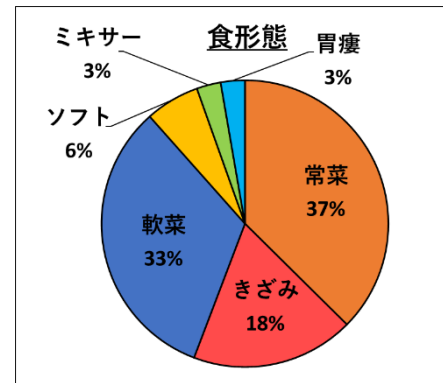
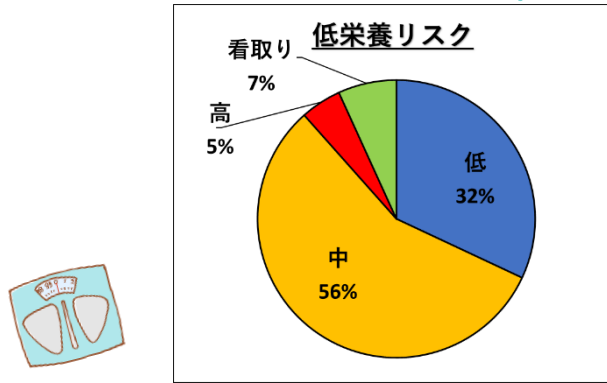




低栄養リスクと食形態の関係について

食形態と栄養状態・リスクに何か関係性があるのか疑問に感じたため、データを集計してみました。その結果が興味深い内容であったため、今回はそれを皆さんと共有したいと思います♪

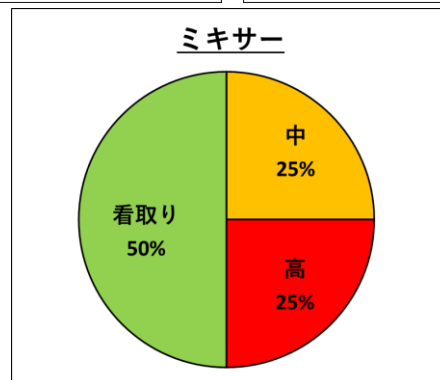
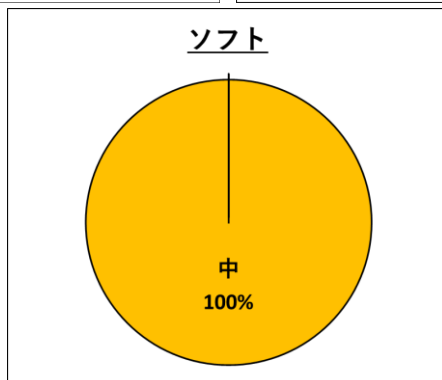
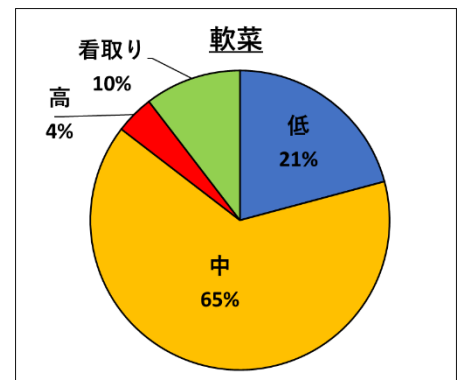
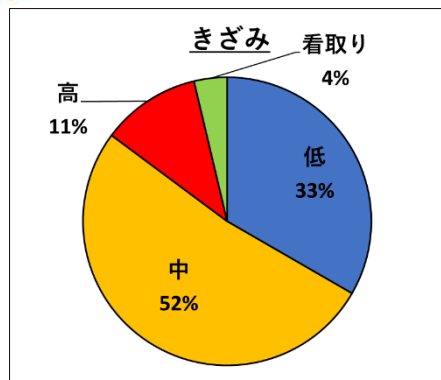
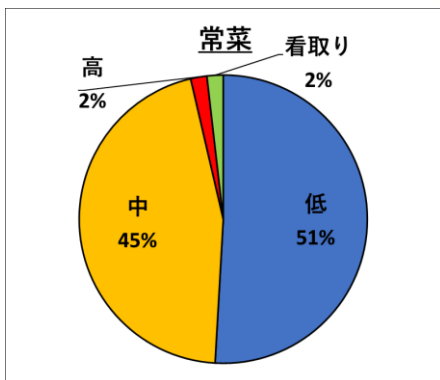
◆低栄養リスクと食形態の割合



低栄養リスクとは、栄養状態が良い順から「低」・「中」・「高」となっており、「中」以上では栄養状態に何かしらのリスク（低体重やアルブミン値が低値など）があることを指します。

入所者の約7割の方が栄養状態に課題があることがわかりました。

◆各食形態のリスクの割合



食形態が下がるほど、低栄養のリスクが高まることがわかります。そのため、食べる力（摂食嚥下機能）と栄養状態には深い関わりがあることが推測されます。

また、常菜やきざみのような食形態でも、約半数がリスク中以上となっています。常菜が食べられるからといって必ずしも栄養状態に問題がないとは限りません。そのため、単純に食形態だけでその方の栄養状態を判断するのではなく、多方面から確認し、多職種で評価を行う必要があると言えます。

*データはすべて2022年5月30日時点のものになります。